

第1章

港区が目指す 「幼児期の教育」

1 港区が目指す「幼児期の教育」の推進理念

港区は、「教育の港区」として質の高い「幼児期の教育」の実現を目指してきました。その指針として、「港区教育ビジョン」（平成 26 年 10 月策定）「港区学校教育推進計画」（素案）（平成 26 年 12 月策定）及び「港区幼児教育振興アクションプログラム」（素案）（平成 27 年 1 月策定）には、「幼児期の教育の充実」や「教員の資質及び専門性の向上」等の取組を示しています。

幼児期は、心身の発達の著しい時期で、自我の芽生え、身の自立、言葉の獲得など、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。港区では、これらを踏まえ、幼児が基本的な生活習慣を身に付け、自ら主体的に人やものとかかわり、幼児期にふさわしい経験を十分にできるようにすることが大変重要であると考え、次のとおり「幼児の生活に豊かな学びを保障する」を港区の幼児期の教育の推進理念としました。

幼児期の教育の推進理念

幼児の生活に 豊かな学びを保障する

2 育ちと学びについて

保育園・幼稚園における「育ち」とは、幼稚園においては学校教育法第 23 条（*1）に掲げる目標を達成するため、また、保育園においても同様に、保育所保育指針の総則に掲げる目標（*2）を達成するため、保育園・幼稚園修了までに育まれる生きる力の基礎となる心情、意欲、態度のことです。幼児期に期待される「育ち」を確実に小学校へとつなぐことが大切です。

幼児の育ちをつなぐためには、豊かな学びの機会を保障することが必要となります。ここでいう幼児にとっての「学び」は、大人が目的をもって学ぶこととは異なり、遊びを中心とした主体的な生活を送っている結果として、次のようなことを「学ぶ」ことを言います。

幼児にとっての学び

- ・ 幼児が様々なものや人と出会い、それらとのかかわりの中で、好奇心や探究心をもつこと
- ・ 基本的な生活習慣を身に付けること
- ・ いろいろな遊びを通して、体を動かす心地よさを味わうこと
- ・ 試行錯誤を重ねる中で物の特性や物事の法則性に気付くこと
- ・ 目的に向かって挑戦し、多少の困難を乗り越えたときの達成感や自己肯定感を味わうこと
- ・ 言葉を獲得すること
- ・ 創造的な思考力や表現力を身に付けていくこと

そして、これらのすべてが小学校以降の生活や学習の基盤となっていきます。幼児期の教育においては、幼児の生活の基盤となる家庭と保育園・幼稚園が連携しながら「豊かな学び」が保障されるよう、「育ち」と「学び」を確実に小学校へとつなぐことが重要と考えます。

また、幼児にとって園生活は、豊かな生活体験を得る場です。「豊かな」ということは、多種多様で、一つ一つの体験がバラバラにあるのではなく、体験の一つ一つが幼児にとって心を動かす体験となり、体験と体験が重なって関連性を持ち、新たな意味や価値が生み出されることであり、それが幼児の学びを「豊か」にします。そのために保育士や教員は、体験の一つ一つが有意性をもつよう、環境を構成し、幼児の活動に沿って環境を再構成することを繰り返しながら、幼児とともに遊びや生活をつくり出していくことが求められます。

このように、大人が一方向的に環境を決めたり与えたりせずに、幼児の気持ちに寄り添ったきめ細かな教育を展開することが、幼児の生活に意味をもつ「豊かな学び」へとつながります。



* 1 学校教育法 第23条

幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体的諸機能の調和的発達を図ること。
- 二 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- 三 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- 四 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- 五 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。

* 2 保育所保育指針 第1章 総則（抜粋）

3 保育の原理

（一）保育の目標

ア 前文省略

- （ア）十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。
- （イ）健康、安全などの生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。
- （ウ）人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。
- （エ）生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。
- （オ）生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと。
- （カ）様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと。

● 「育ちと学び」を小学校へつなぐ ●

保育園・幼稚園



持ち物のリュックを所定の位置に置く

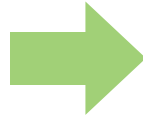
小学校



ランドセルや帽子を丁寧に置く



先生と一緒に話し合う



めあてをもって先生の話聞く

3 港区の教育・保育の現状

(1) 保育園・幼稚園・小学校の連携

現在、港区では、幼児期の教育から続く小中一貫教育を推進するとともに、幼児期の教育の質を高めるため、保育園・幼稚園・小学校の保育士や教員による合同研修会などに取り組んでいます。公開保育や研究協議会では、子どもの見方の違いに気付いたり、課題を共有したりするなど、小学校入学前教育の充実に向けて、組織や園の壁を越えて取り組んできました。

また、保育園・幼稚園・小学校における子ども同士の交流活動、保育士・教員同士の就学に向けた連絡会、情報交換等、地域の実態に応じて連携を進めています。

今後は、今まで保育園・幼稚園・小学校が工夫してきた様々な取組を、教育課程や保育課程、年間指導計画に位置付けたり、互いの公開保育や授業参観等を通して、互いに高め合えるような協議会や研究会等の方法や内容等を工夫したりすることが必要です。

(2) 「小1問題」(*3)

東京都教育委員会の「小1問題の予防・解決のために」(平成25年3月)では、不適応状況の発生の有無について、「不適応状況が発生した」と回答した校長の割合は、都内公立小学校のおおよそ5分の1の21.1%となっています。一般的な傾向として、小学校第1学年児童の不適応状況は、小学校において課題となっています。

港区においては、「小1問題」が発生している状況にはありませんが、「小1問題」を未然に防止するためには、幼児期の教育から小学校教育に円滑な接続を図ることを意識するとともに、そのための方策として、互いの指導内容や方法を理解し、工夫する必要があります。

4 「小学校入学前教育カリキュラム」作成の目的

幼稚園教育要領及び保育所保育指針(いずれも平成21年施行)では、小学校との連携にかかわる内容が明記されました。小学校学習指導要領(平成23年施行)においても、幼稚園・保育所との連携や交流にかかわる内容が明記されるなど、幼児期の教育の重要性が示されました。

国の教育振興基本計画(平成25年6月)では、基本施策である幼児期の教育の充実のための主な取組として、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、各学校における教育課程の編成や指導方法の工夫を促すとともに、幼児と児童の交流や教員による合同研修など保幼小連携の取組を促進する」こととしています。東京都においても就学前教育の充実に向けた取組として「就学前教育カリキュラム」や「就学前教育プログラム」等を作成し、教育・保育の質の向上を推進しています。

港区では、こうした国や都の動向を踏まえ、平成25年10月、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図ることや、質の高い幼児期の教育の実現に向けて、教育委員会と子ども家庭支援部及び各総合支所が協働し、カリキュラムの作成に向けて「小学校入学前教育カリキュラム検討委員会」を発足し、検討を重ねました。

本カリキュラムは、港区に在住する全ての幼児が、幼児期にふさわしい経験を確実に積み重ねて小学校に入学できるようにすること、港区の保育士や教員が、この「小学校入学前教育カリキュラム」を活用し、指導を振り返り、改善や工夫をすることで、教育・保育の質的向上を図ることを目的としています。



*3 小1問題

小学校入学後、学級内が落ち着かない状態が数ヶ月にわたり継続する状況のこと。教師の話を聞かない、指示どおりに行動しない、勝手に授業中に教室の中を立ち歩いたり教室から出て行ったりする児童が散見できるなど、授業規律が成立しない状態をいう。

5 港区の特色

(1) 港区らしさ

港区は、世界に開かれた国際都市として、最先端の情報が集まり、産業・文化の発信地であるとともに、歴史ある建物と豊かな文化が融合し、都心でありながら緑と水辺の自然が豊かで、四季を感じられる環境にあるなど、多様性に富んでいるという特色があります。

また、少子高齢化が全国的に進む中、平成 26 年 3 月における港区政策創造研究所による将来人口推計では、港区の人口は、平成 37 年までに全体で約 290,000 人程度となり、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口のいずれも増加が見込まれています。

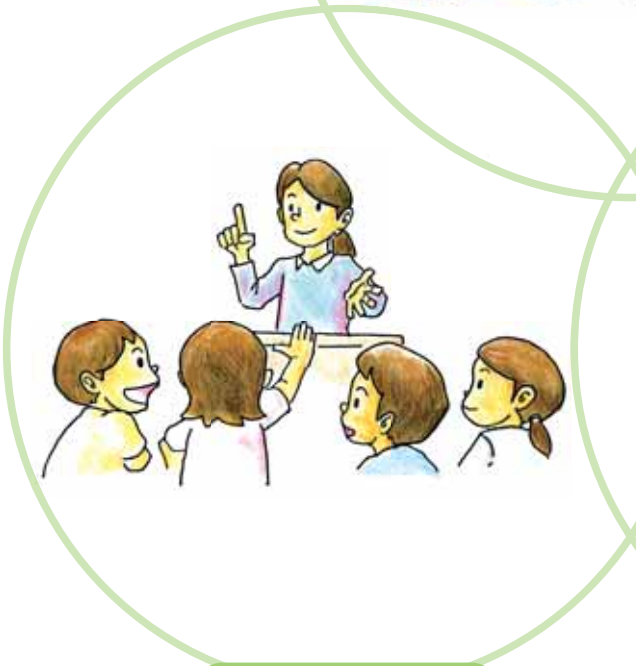
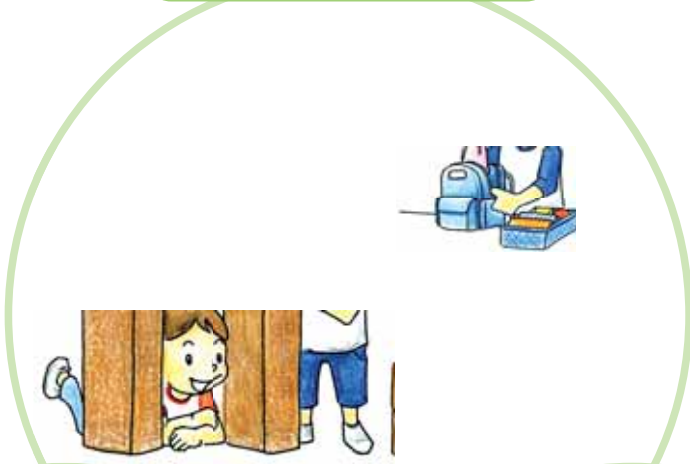
このほか、大使館、外資系企業が数多く、区民人口における外国人の割合も高く、国際色豊かであることも特色としてあげられます。国際色豊かな環境の中においては、いつでも誰でも、身近に外国人に出会うことができます。



(2) 家庭と連携した質の高い「幼児期の教育」の実現

港区の子どもは、何にでも興味・関心を示すなど好奇心旺盛であり、自分を発揮し表現するというよさが見られます。一方で、全国的な傾向が港区でも見られ、自然体験の不足や人とかかわる経験の不足、体を動かす経験の不足などの課題もあります。また、保育園、幼稚園、小学校の教育・保育の現場からは「すぐに『疲れた』と言う」「必要なときに必要なことが言えない」「もうひと踏ん張りしてほしいというときにあきらめやすい」など、遊びや生活の中で気になる姿も報告されています。

● 保育園・幼稚園 ●



● 小学校 ●



● 家庭 ●